

新規・継続等	新規	分野	補完的な道路の整備		事業番号	86	事業名	県単道路改築				
市町村名	宮田村		ふりがな 箇所名	(一)宮田沢渡線		事業年度 (完了年度は見込み)	町三区		H23年度～		H27年度	
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路拡幅工 L=900m W=5.5(9.25)m					H22年度末事業進捗率	0%				
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%				
	H23年度実施内容	測量設計、用地補償 1式					用地補償費ベース	0%				
	事業費計(千円)	全体事業費	H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降	300,000					
	財源内訳	国庫支出金										
その他												
県債		270,000	0	0	13,500	270,000						
一般財源		30,000	0	0	1,500	30,000						
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価			部	政策評価課					
			ランク	評点	ランク	評点						
	必要性 (30)	計画交通量	4,000台/日以上	1,500台以上～4,000台/日未満	1,500台未満	C	C	2	2			
		代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある				0	0			
		ネットワーク (道路網)	バス路線である	駅やICなどに通じるまたは役場と交通結節点や支所などを結ぶ路線	A及びBに該当しない			3	3			
			ボトルネック箇所	ボトルネック箇所でない				0	0			
		各事業特有の必要性(安全の確保)	観光地に通じる道路	観光地に通じる道路ではない				0	0			
			4.0m未満又は30m未満又は8%以上(幅員、半径、勾配)	4.0m以上5.5m未満(幅員)	5.5m以上(幅員)			4	4			
		歩道未整備区間に歩道を設置	歩道はあるが不十分であるものを再整備	歩道整備無し	4			4				
		他事業との関連	河川改修、新幹線、高速道などの事業に関連して実施		0			0				
	小計				13	13						
	重要性 (10)	設計上の環境配慮	環境配慮がされ確実性が高い	環境配慮がされているが確実性が低い	環境配慮をしていない	B	B	3	3			
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(2個以上)	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(1個以上)	特別な位置づけはない			3	3			
		小計						6	6			
	効率性 (20)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上	B/C 1.0～1.5未満	B/C 1.0未満	B	B	3	3			
		事業効果の早期発現	事業年数 3年以内	事業年数 4年～5年以内	事業年数 6年以上			5	5			
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない			5	5			
		小計						13	13			
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	A	A	10	10			
		各事業特有の緊急性(医療・福祉・教育)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に係らない道路			6	6			
小計					16			16				
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	A	A	6	6				
	事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない			6	6				
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加	住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない			8	8				
	小計						20	20				
費用対効果(B/C)		1.2	評価の合計			B	68	B	68			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	交通事故はH8～H17の10年間で9件、H17～H21の5年間で5件発生している。近隣の歩道設置区間では事故は少なく、本区間での歩車道空間の分離が必要である。また、朝夕の通勤時間帯には交通量の多い(国)153号を避ける通過交通が多く、小中学生が常に危険にさらされている。										
	地域からの要望経緯	地域からは、毎年事業採択の要望が上がっている。宮田村としても他の箇所優先して整備するべき箇所としている。また、平成16年度、平成17年度、平成19年度に交通安全総点検を実施しており、地域の関心は高い。H20年10月、H21年6月、H21年10月、H22年4月、H22年11月村より要望。										
	事業説明等の経緯	平成21年9月に地元検討委員会設立。計9回の検討状況については広報により、地区民に周知されている。H22年12月7日に事業実施の方針が決まった。										
	環境・景観への配慮項目	一部区間において道路と民地との高低差があるので、当該区間は地権者等の協力を得ながら極力土羽構造とする。										
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。										
特記事項	ボイス81要望箇所。平成21年度～平成22年度にかけて計9回の地元検討委員会を開催し、整備方針をまとめた。											
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他							
部意見	地元検討委員会にて整備方針をまとめるなど、計画熟度も高いため、平成23年度から事業着手したい。			政策評価課	緊急性は認められる。							